

阿嘉島の昆虫

上林 利寛
A M S L 調 理 担 当

— 金属光沢が美しい昆虫たち —

Insects in Akajima: Insects with beautiful metallic luster

T. Kamibayashi

昨年、夜な夜な部屋の灯りに誘われて飛来するカメムシに、悩まされたことがありました。部屋に入って来るカメムシの大半は体長1cm程度のチャバネアオカメムシでした。「ブンブン」という体の大きさからは想像できない大音量の羽音が、安眠を妨げるのです。だからといって捕まえようと下手に刺激すると、今度は強烈な「臭い」に悩まされることとなります。このカメムシはシマグワ（桑の木）やミカン類に付く害虫です。そういえば確かに、研究所の周りには沢山の桑の木が自生しているのです。

カメムシは個人的にはあまり好きではない昆虫ですが、美しさを感じるものも少なからず存在します。海岸で、オオハマボウ（ユーナ）の葉裏に群がり越冬するシロジュウジカメムシ（写真1）もそのひとつに挙げられます。もっとも、本種の場合は体表にアルファベットのXを背負ったようなデザインが綺麗なのです。昨年の8月の夜、宝石のような輝きを放つナナホシキンカメムシ（写真2）が部屋に舞込んだ時は、その美しさにしばらく釘付けになっていました。その後、本種の寄主であるカンコノキ類を山中で調べて見たのですが見つけ出すことが出来ず、一度きりの訪問者となってしまいました。

夜、灯りに飛び交うカメムシとは対比的に、夏の日中、

モクマオウの林の中を「ブンブン」と飛び回るタママシの一種、アオムネシタママシ（写真3）がいました。こちらもナナホシキンカメムシに負けないくらいに金緑色の輝きを放っています。本種の寄主はモモタマナ（写真4）で、公園などにもよく植樹される高木です。しかし、アオムネシタママシが日中あまり一ヶ所に留まらないせいか、モモタマナでの観察は未だにありません。

上記以外にも、金属的な輝きを放つ昆虫は他にも多く存在しますが、それらのほとんどが“構造色”と呼ばれるものです。構造色とは昆虫自体に備わっている色ではなく、体の表面の微細なつくりにより光が反射することによって、輝いているように見えるものです。蝶ならば、モルフォチョウの翅の輝きは構造色の代表といえますが、私たちの生活の中にも構造色は存在しています。例えば光の角度で虹色に見えるコンパクトディスクがそうです。

環境への配慮から塗料を使わない構造色の自動車、「タママシ色の車」が近い将来、実用化されるという噂を耳にしますが、コスト面や交通事故を起こした時に証拠が残りにくいことなど、まだまだクリアしなければならないことが多いそうです。



写真1.



写真3.



写真2.



写真4.